



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第二六八号〜

立春 りっしゅん

二月四日

## 年内立春

暦の上で最も寒さの厳しいという「寒」の三十日間が過ぎて、今日は二十四節気の立春。また、寒明けともいいます。寒が終わるではなく、明けるという表現に年明けと同じような「改まる」感じがします。しかしながら、旧暦（太陰太陽暦）の昔なら今年はまだ年は明けていません。旧元日は二月十六日になります。

平安時代前期、醍醐天皇の命により紀貫之ら名だたる歌人が撰者となった『古今和歌集』には、最初にこんな和歌が選ばれています。

ふるとしに春立ちける詠める

年の内に春は来にけり一年と

去年とやいはむ今年とやいはむ

在原元方

（暦の都合で年内に立春があったなら、その年は去年になるのか今年になるのだろうか）

作者の在原元方は業平の孫。立春が元日より前に来てしまうことを「年内立春」といいました。これは日々の暦を月齢で数え（太陽暦）、二十四節気は太陽の運行をもとにして数えるため（太陽暦）に起こるずれが理由です。とくに三年に一度程度入る閏月があると、一カ月以上ずれるため、「年内立春」となるのです。古今和歌集は天皇の命により編まれた最初の勅撰和歌集に当たり、優美な歌の数々はのちの勅撰和歌集の理想とされたほど。その最初に年内立春の和歌が選ばれているのです。それほど大事な「とき」だったのでしよう。

ときは下って江戸時代。俳人、小林一茶は少しくだけて年内立春を詠んでいました。

年の内に春は来にけりいらぬ世話

一茶

文 千種清美



# おかげの里便り

おかげ横丁

## ○ ひなたたちの餅まき参加者募集

お正月や祝い事など「ハレの日」の特別食である「お餅」。節句ごとに飾ったり、季節の区切りに食したりと、私たち日本人の生活や行事には必ず登場します。

おかげ横丁では、3月3日のひなまつりの日、お餅を「福」に見立て、着物姿の少女達に太鼓櫓から撒いてもらうことで、上巳の節句の厄払いを行います。

と き／3月3日(土) 15:00～15:30

ところ／おかげ横丁内「太鼓櫓」

募集内容／着物姿でお餅をまいていただける、小学生の女の子10名。

締め切り／2月13日(火)

※なお、応募者多数の場合は、抽選となります。予めご了承の上、ご応募ください。

抽選結果／募集締切後、2月17日(土)までに通知いたします。

申込み／必要事項(参加者氏名・ふりがな・学年・保護者氏名・住所・電話番号・参加者の身長)を明記の上、下記までFAXまたは郵送。またはHPから申込。

〒516-8558 三重県伊勢市宇治中之切町52

「ひなたたちの餅まき参加者募集係」宛

\*郵送の場合は、2月13日必着

FAX 0596-23-8814

おかげ横丁総合案内TEL 0596-23-8838

五十鈴塾

## ○ 漢字の旅「冬・氷・雪」

漢字はいつどのようにして生まれたのでしょうか。今、残っている一番古い漢字は「甲骨文字」。亀の甲羅や動物の骨に刻まれた漢字です。これは占いの結果を記録するために使われました。漢字は仮名やローマ字と違って一字一字が意味や由来をもっているのです。私たちが日頃使っている漢字にどんな意味があるのか、違った角度から見直してみると漢字の面白さ、楽しさが見えてきます。

今回、注目する漢字は、「冬・氷・雪」。甲骨文字「冬・雪」と金文の「氷」の字形は、漢字の成立のヒントをすこし与えてくれるかもしれません。2月16日は旧暦のお正月。文字の歴史の変化を考えながら、古代人の正月の風俗習慣をご紹介します。そして、一緒に淡墨で美しい甲骨文字を書きましょう。

と き／2月13日(火) 13:30～15:00

講師／高 潤生(書道篆刻家・現代印作家)

参加費／一般1,300円 会員800円

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

## ○ 節気菓子

はる おとず  
春の訪れ

ういろう  
外郎の生地で、こし餡を柔らかく包みました。  
春の霞に浮かぶ、ほの紅い、梅の花を思わせるかのようです。

しら たまつばき  
白玉椿

山芋を使った生地で、こし餡を包み、この時季の風情を讃えた、早咲きの白玉椿に見立てました。

そうしゅん  
早春

こし餡のそぼろと、粒餡の羊羹の間に、若草色の白餡そぼろを重ね、土の中から草の芽が顔を出す様子を表しました。